

神さまはともいてくださる

神さまのすまい

神さまのすまいはどこにあるのでしょうか。どこに行けば神さまに会うことができるのでしょうか。神さまはどこに住んでおられるのでしょうか。

ここでは、神さまがどこにおられるのか、じぶんに考えて、次に書いてみましょう。

いろんなことが考えられますね。

昔のひとたちは、神さまがどこにいるかと聞かれると、指を上に向けて、天におられると答えていました。

昔のひとたちは、わたしたちのように、宇宙がこんなに広いものとは思っていませんでした。地球は平らなものと思っていましたし、地のはてに行くとおちてしまおうと考えていました。また、地面の下にはよみがあり、上には空があつて、そこを太陽や月が行ったり来たりしていると考えていました。

このような宇宙の考えを持っていれば、神さまは

天てんにおられると考かんがえてもおかしくありません。悪わるい人ひとは地ちの下したのよみに落おとされ、よい人ひとは天てんに上あげられて、神かみさまのもとに行いくと考かんがえるようになりました。今いまのわたしたちとは、だいぶ違ちがった考かんがえを持もつていたのです。

イエスが天てんに上あげられる話はなしは、イエスが神かみの子こであり、十じゅう字じ架かにかけられて殺ころされても、神かみさまとともにいつもいて、わたしたちを見守みまもつていて下くださることをしめています。

### ともにいる神かみさま

聖書せいしょで神かみさまの名なをみだりにとなえてはいけな

と教おしえられてきました。神かみさまはおそれおおいかたで人間にんげんはとても近ちかづけないものと思おもっていたからです。でも、主しゅエジプト記きでは、神かみさまがモーゼをイスラエルイスラエルの民たみにつかわすにあたつて、「わたしはかならずあなたとともにいる」とやくそくされています。

イエスの弟子でしたちは「ともにいる」というイエスのことばにささえられて、させつからたちなおり、教きょう会かいであつまり、神かみさまのつかいとして、ひとびとにイエスのことを伝つたえています。わたしたちもともにいただく神かみさまの力ちからによって、福ふく音いんをあかしていくことができるのです。